

艦政本部

馬

第一部長

部員

會計課長

課長

四三

0973

副官

參事官

四廿

大臣

種  
廿五廿月廿日起案

次官

印

軍務局長

印

局長

印

指令案

其工第... 五二号 試驗砲 海軍方

官房第一五九九號

海軍

徳政  
元年  
七月  
丁未

徳政

徳政元年七月丁未

0974

總政本部

第一部長

司令長官

吳工第...の...

四月某日進...

試驗砲備付相成度儀上申

一四寸口全安式十二斤速射砲

但砲身ノミ

壹門

目下當廠試驗砲トシテ御認許ヲ得亀ヶ首大砲發

射場ニ据付アル安式十二斤速射砲(吳五七號)ハ發射數既

ニ百餘發ニ達シ藥室ハ正數腐蝕ヲ來シ候ヲ以テ

信管試驗ノ如キ初速ニ關係ナキ試驗用トシテハ差支無シ候

得共火藥試驗ノ如キ極ノテ精密ヲ要スル試驗用トシテハ

到底其用ニ不堪事ニ相成候ニ就テハ從來ノ吳五七號砲

專ラ信管其他ノ試驗用トシテ其儘ニ据置キ更ニ火藥

試驗用トシテ頭書ノ通供用ノ儀御認許相成度此段

上申候也

官房第一五九九號

毎

區

四月廿九日

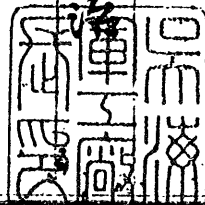
0975

1621

追テ砲身ハ試験ノ目的ニ從テ其都度從前ノ砲  
架ニ交互組合候事ニ可致候條爲念申添候

明治三十七年四月二十三日

吳海軍工廠長山内萬壽



海軍大臣男爵山本權兵衛殿

0976



臺門海迎百裝、刺命之、千、竹、經、方

認許久

陽北、辛、乙、巳、申、午、丁、未

大五

是、指、國、名、也、有、心

0978

艦政本部

第一部長

電 訊

四月三十日

大臣アテ

呂 峯 長 長

高砂艦長より小銃口径内(晴)砲弾余三万個  
年額増加申請アリ此際不得已儀ト認メ以て  
許アリ度本年本日進達ス



0979







軍務局

總政本部

第一部長

海軍大員第四〇六號ノ三二

御 座

一 碍 子 無線電信機用

拾 個

右 佐世保鎮守府望樓監督官ヨリ白翎嶋  
無線電信所用トシテ 請求有之云云 慮必要ノ  
義ト被認事、自兵器經理規程第十五條、其  
供給致事条以般御座仕事也

明治三十七年五月七日

佐世保鎮守府司令長官 穀島貞規

海軍大員第四〇六號ノ三二

佐世保鎮守府司令官印

0982

司令部



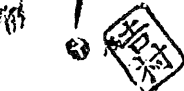
次長



作戦班



五千



0983

艦政本部



部次



製圖室 金田

五



副官



井出 参事官

五



大臣

三月七日 五月八日起索

次官



軍務局長



局長



指令

横濱 第一 第四 第五 第六 第七 第八 第九 第十

官房第一六九九號

母 宣

十二行 延付 炮 楯 満 年 津 穂 許 天  
昭和三年七月十日

海軍

昭和三年七月十日

0984

横廠八重第 四

四月七日進

参謀長 小倉

参謀

副官



軍艦八重山嶺十三日達射死捕首等の上申

軍艦八重山嶺十三日達射死捕首等の上申

首等の上申、処置の結果、至、南、北、

復、首、北、隊、隊、隊、隊、隊、隊、隊、隊、

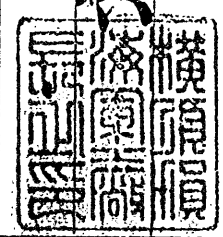
方、方、方、方、方、方、方、方、方、方、

此、此、此、此、此、此、此、此、

明治三十七年九月廿一日

横須賀海軍工廠長代

海軍中佐 江口 鑢



海軍大臣 野村 浩将 山本 權兵衛 殿

官房第一六九八號

海軍

0985

八重岸一七号

十二斤連射砲、砲楯備附相同度儀ニ付

上甲

本艦備附、十二斤連射砲ニハ、砲楯蓋ニ於テ十二斤砲  
ハ前部ノ者ハ「エニコルガビツト」ニ接近シテ后部ノ者ハ右其ノ  
直上ニ「カク」及「傳馬」船ヲ格納スル様相同度儀、砲楯蓋ニ  
候テハ平時操練ノ際ハ照準器ヲ毀損スルノ場合甚ク多  
カル可ク實戰ニ際シテハ、砲手沈靜ノ度ニ至大ノ関係有之  
且ツ十二斤砲三门ニ對スル砲楯ノ總重量ハ約五噸弱ニ  
過キス后部十二斤砲ヲ「プロ」上ニ移シタル結果之ヲ格  
納スル方却テ本艦ノ釣合上宜シキ様考ヘラレヌニ付至  
急備付相同度儀此段上申ス也

損鎖岸一五五号、一六〇

一

五

0986

明治三十七年五月二日 於横須賀港

軍艦八重小艦長西山實親

横須賀鎮守府司令長官海軍少将井上良毅殿

海軍

0987

軍艦八重山十二斤速射砲 備付

工事方概

一十二斤速射砲 省差門へ当造豆部計貯蔵

箱ヲ取付クル工ト

一 天貫概算

工費金比於差田  
材料費金 参目五於料

一 工事日数

参目同

一 直量増加

四噸噸百有於差田

左

明治廿七年五月日下

横須賀工廠造豆部長 種子田右八郎





艦政本部長 (項馬)

第一部長

部員

第三部長

會計部長

副官

參事官

發給

大臣

三月廿五 川八日 起案

次官

軍務局長

局員

經理局長

主任局員

官房第一七〇六號

着給 第六三〇號ノ一三 第一 天格

一廿 五

五九

廿九

0989

三海防魚形水雷用仮架臺分彙簿

新設ノ件認許ノ久

但費用ノ事手取書及修繕費ノ支取下ス

明治三十一年七月廿一日

0990

舞鶴鎮第二三四號一三

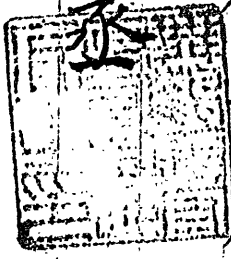
海軍

上申

今般第一天橋海防魚形水雷四個ヲ搭載候就テ九記二  
廉新設方當水雷團長ヨリ上申有之必要ト認ノ候條御  
認許相成度別紙圖面并關係書類相添此段具申候也

明治三十七年五月四日

舞鶴鎮守府司令長官日高壯之丞



政本部

海軍大臣男爵山本權兵衛殿

第三部

第一部長一海防魚形水雷用候架臺据付

一右今雨露除

四三所  
四枚

一七〇六

國海軍大臣男爵山本權兵衛殿

第一天橋海防魚形水雷用仮架臺振付外一廉

新設、関する理由書

一海防魚形水雷仮架臺振付

右、固定装置架名ヤキヲ以テ風波ノ為メ船体動様ノ

際、顛倒ノ虞アリ

一海防魚形水雷雨露除

右、架臺ノ位置天橋上甲板ノ后部ニテ常ニ曝

露シアル為メ水雷ノ保存甚ク困難ナリ

合上、関する意見書

魚形水雷顛覆ノ危険ヲ豫防シ且ツ保存上新

設、必要アルモノト認ム

明治三十七年五月三日

舞鶴海軍工廠長代理 中山長明

0993

第一天橋：海防魚形水雷用仮架基並に雨

露除新設に關する調書

工事方策

一 別紙圖面貼紙ノ通り木製ニテ其接觸面ニ革ヲ貼リ

且動搖留ハ綱ヲ以テス又雨露ノ防クカ爲メケンバス

ヲ以テ適當ノ雨除ヲナス

工事費用概算

一 職工費金四拾七圓五拾錢

一 材料費金七拾圓

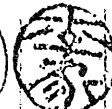
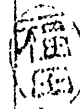
工事日子七日間

右

0994

明治三十七年五月三日

舞鶴海軍工廠造兵部長李家政太  
舞鶴海軍工廠造船部長福田馬之助



0995

海防團書第266部

第一天橋、海防用奥形水雷用架基に固定

本夜上申

一海防奥形水雷用架基に固定せし

四ヶ所

右ノ般海防奥形水雷四個ノ第一天橋、撓載及修  
度加甚、固定せし架基より為シ風波ノ際、顛倒、  
憂り甚ク危険、去條臨時相慶ノ固定架  
基に設置せ成度、上申、修也

明治三十七年四月十日

海防團書團長海軍大佐久保保善迄

赤鶴鎮守府司令長友目高壯ニ呈



寫

新水雷船第一七二號

第一天橋搭載海防魚形水雷、兩舷除、設

度上中

一海防魚形水雷兩舷除

新水雷船第一七二號、以テ上中、候海防

魚形水雷架名、位置、第一天橋、甲板

卸、<sup>ニテ</sup>常、大空、曝露、<sup>ル</sup>為、水雷、保存

甚多困難、候條、候時、在商、<sup>ノ</sup>而、除、除、即

設置、<sup>ト</sup>成、度、付、<sup>ル</sup>也、<sup>ト</sup>也

明治十七年四月十九日

新水雷船第一七二號、海軍大臣、大隈、<sup>ト</sup>保、保、<sup>ト</sup>造

新水雷船第一七二號、大隈、<sup>ト</sup>保、保、<sup>ト</sup>造

0997

電報局

佐藤第一〇號ノ一五三

又 数量記事

三十五年式海軍銃 壹。挺 予備トシテ

一番形拳銃 參。挺 將校用トシテ

彈藥 參。個 將校用トシテ

會審銃彈藥 六〇〇個 將校用トシテ

右、特別陸戰隊指揮官ヨリ請求有之候處必要ノ義ト被認候旨兵器經理規程第十五條ニ基キ供給仕美条ニ取御健美也

明治三十七年五月十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛殿

維新政府司令長官殿

長官

保鑣

海軍本部

第一

軍務局

六覽

御出

御出

佐錄第一〇號、一五九

御出

局長

御出

五三

三十五年式海軍銃用彈藥 三四八〇発

右陸軍隊指揮官ヨリ要求有之美慮必要之義ト

被認候二付兵器經理規程第十五條ニ基キ供給致

候條ニ設御由仕矣也

第一部長

明治三十七年五月十七日

海軍大臣野澤山本權兵衛殿

海軍大臣野澤山本權兵衛殿

長官印

0999

佐領兼奉才四四册、八四

御届

陸用電信線 無線電信用 五〇〇米突

右八佐世保鎮守府望樓監督官より白羽島無線電  
信所用上言請求有之矣處必要義ト被認矣ニ  
付兵器經理規程第十五條ニ基キ供給致矣  
此段御届仕矣也

明治三十七年五月十九日

海軍省軍務司官官廳長官印

第一部長

皇大臣男將山本權兵衛

長官印

艦政本部

軍務局

局員



軍務局

局員

佐

〇

一六七

覽

艦政本部

第一部長

會計課長



海軍大臣官舎山本種兵衛殿

一三十五年海軍銃用彈藥 三三八八〇〇發  
 右陸戰隊指揮官ヨリ要求有之候處必要義下被  
 認候付兵畧經理規程第十五條ニ基キ供給致候条  
 目段由届仕候也  
 明治三十七年五月二十八日

由



保鎮上

長官印

六三〇

1001

軍令部長



次長



作戦班



艦政本部長



第一部長

部員



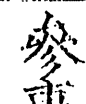
第二部長



第三部長



副官



大臣

二十七年六月二日起案

六三 決裁済

次官



軍務局長



局員



事務音羽備砲ノ件

事務音羽ノ案載スル十五冊送付

官房第一九五六號

毎頁

砲台門、四十五度徑ヲ装備ノリ、  
 其、  
 一、  
 之、  
 明和二十七年六月

理由 甲五度徑砲、在邪之於、  
 及、  
 本、  
 採用、  
 學、

砲台門、四十五度徑ヲ装備ノリ、  
 其、  
 一、  
 之、  
 明和二十七年六月

先

司令部長

次長

作戦部長

艦政本部長

第一部長

部員

警謀課長

副官



参事官

六十九

大臣

二十七年二月九日 起案

次官



軍務局長



局員



艦政本部長 参事官 次官 局員 部員 作戦部長 司令部長

母

官



1004



調停之難

三月七日午六月

大臣  
長官  
目録  
者  
丸

二  
三

軍務局

艦政本部



電譯

六月八日

大臣宛

呉鎮長官

蒼鷹島ヨリ司令塔上ノ探海燈ヲ賄所  
 ノ上ニ移シ其ノ後ニ五十七ミリメートル砲一  
 門増備方上申アリ此ノ際必要ト認ム  
 許アリヒタニ工事ハ豫定日限内ニ施行  
 得

二八

1006



# 電 報 送 達 紙

局	着	局	發	受 信 人 居 所 氏 名	
取 受 所	信 受 午 時 分	付 受 午 時 分	第 報 局 號		
		月 日			
	ウ	コ	サ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     注 意                      他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此山ヲ                      符箋シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻ス                      ベシ決シテ其受取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカ                      ラズ                 </div>	
	ハ	イ	イ		
	ク	キ	ヒ		
	ケ	マ	ク		
	コ	ア	コ		
	セ	リ	ウ		
	シ	イ	ト		
	ス	ニ	ニ		
	テ	ク	ト		
	チ	キ	ク		
	リ	キ	ク		
	フ	キ	ク		
	ク	キ	ク		
	ク	キ	ク		

1008

覽

...

總政本部

...

又

名

数

量

記

事

安全速射砲陸砲架用換索

八式

房特別陸戰隊用

全

全

肩掛

七

貳

個

全

全

全

手斧

四

個

全

全

全

鷓鴣鋏

四

個

全

全

全

角匙鋏

四

個

全

全

全

鑿力

四

個

全

右、第三機隊ヨリ請求有之、其處は要、義ト被認、  
兵器經理規程第十五條、基干供給致責、此  
段、却痛仕候也

明治三十七年六月十五日

東京府員令第...

東京府員令第...



海

年

軍務局

佐錄第一〇號 一九三

供覽



陸軍本部

第一部長



運送所今平丸ヨリ別紙之諸兵器請求有之候處  
以要之義ト被認候付兵器経規程第十五條ニ基キ  
供給致候条此段御届仕候也  
明治三十七年六月十八日



兩頁



海軍大臣男爵山本權兵衛殿

海軍大臣男爵山本權兵衛殿



馬珍鏡	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	品	谷	教	量
洗矢頭金	洗矢	勝手鉄	田螺兜	油入	劍	帯	十虫胴乱	大胴乱	背負革	馬珍鏡					
五何	五何	五何	五何	五何	五何	五何	五何	五何	五何	五何	五何				



全	全	全	吉	全	稻	全	全	全	全	全	全	全
洗	胴	鏡	番形拳	穂	毒形圃螺兎	篋	鏡	十木	翻	殺	全	打
天	乱	袋	鏡	先	兎	葉	口蓋	槌	鐵	板	件	針
斗	斗	斗	斗	参	吉	志	五	志	志	志	五	参
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何

今 帶 革

吉 們

今 回 轉 鬼

吉 們

今 彈 藥

吉 五 們

子 銃 彈 藥 四 半 筐

吉 們

喇

喇

吉 們

今

總

吉 們

新 式 瓷 光 信 字 燈 二十二年形  
白 函 入

吉 們

燃 料 罐 檢 的 筐

吉 們

要 具 筐 要 具 艾

吉 們

海

車